

東伊豆町まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン 総合戦略

ダイジェスト版

人口ビジョンとは

地方が成長する力を取り戻し、急速に進む人口減少を克服するため、国と地方が総力を挙げて取り組む指針を示した「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」を踏まえて、本町の人口に関する現状分析に基づき、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示したものです。

総合戦略とは

総合戦略とは、人口ビジョンで掲げた町の目指す将来人口の達成を目指して、人口減少克服・地方創生のために、分野横断的に取り組む計画です。

本計画（計画期間：平成 27 年度～平成 31 年度）は、人口ビジョンで掲げた目標人口 2040 年（平成 52）年に 8,406 人を達成するために当面の 5 年間で取り組むべき施策・事業等について示すものです。

人口ビジョンで掲げた
町が目指す将来人口
の達成

8,406人

将来人口の目標を達成する
ための総合戦略を展開!

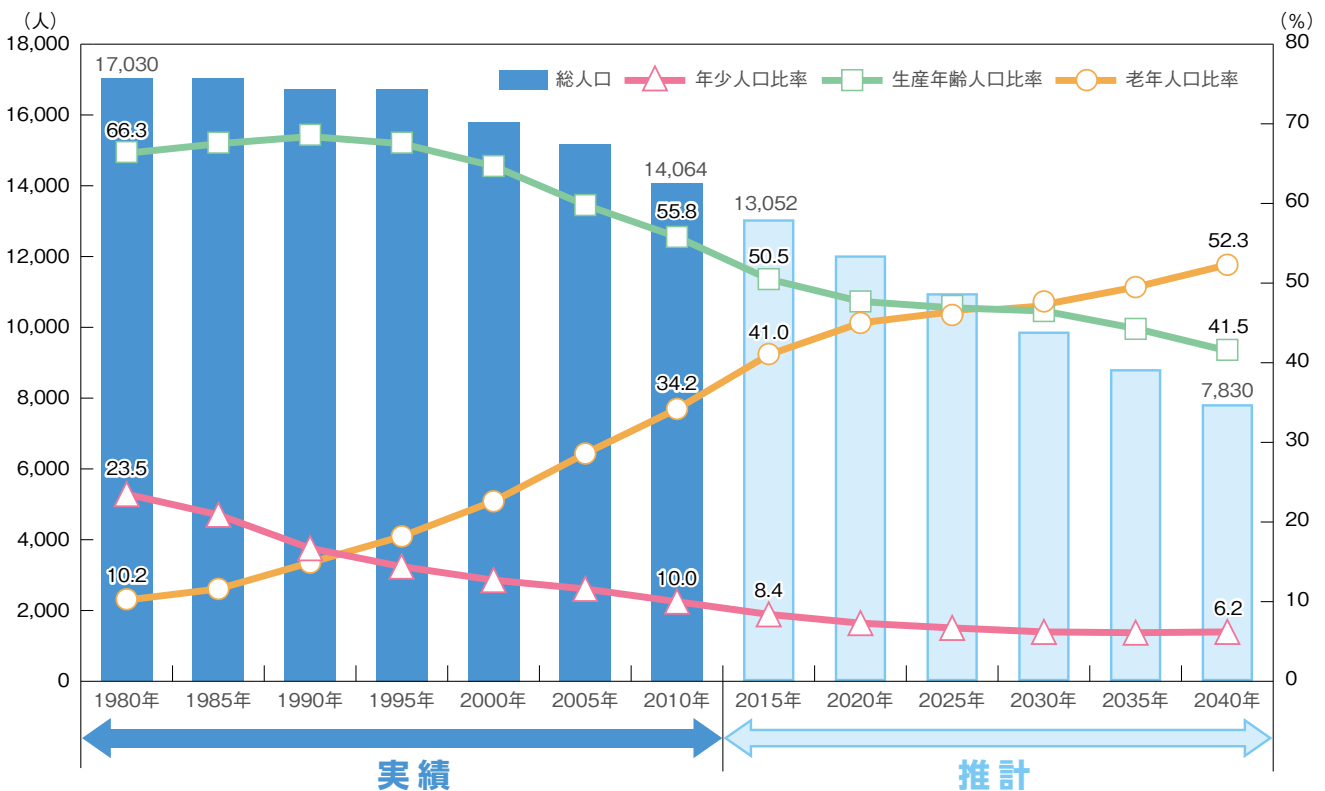
静岡県 東伊豆町

人口ビジョンについて

東伊豆町の現状

- 本町の総人口は、2010年（平成22年）に14,064人となり、1980年からの30年間で3,000人近く減少しています。
- 少子高齢化も進み、2010年（平成22年）は年少人口比率が10.0%、生産年齢人口比率が55.8%といずれも低下し、一方、老年人口比率は上昇して34.2%となっています。
- 現状の状態が続いた場合、2040年には総人口が8,000人を割り、少子高齢化もいっそう進むと考えられます。

東伊豆町の人口推移と今後の予測



東伊豆町の人口減少の特徴

- 人口減少率及び少子高齢化の進行状況のいずれも国及び県を上回っています。
- 死亡数が出生数を上回る自然減、転出数が転入数を上回る社会減が常態化しています。特に、若い世代の転出と子どもを出産する年代の女性の減少が進んでいます。
- 15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計した合計特殊出生率は、国及び県よりも低い状況が続いています。
- 男女ともに未婚率が上昇しています。

人口の展望と目指す将来の方向

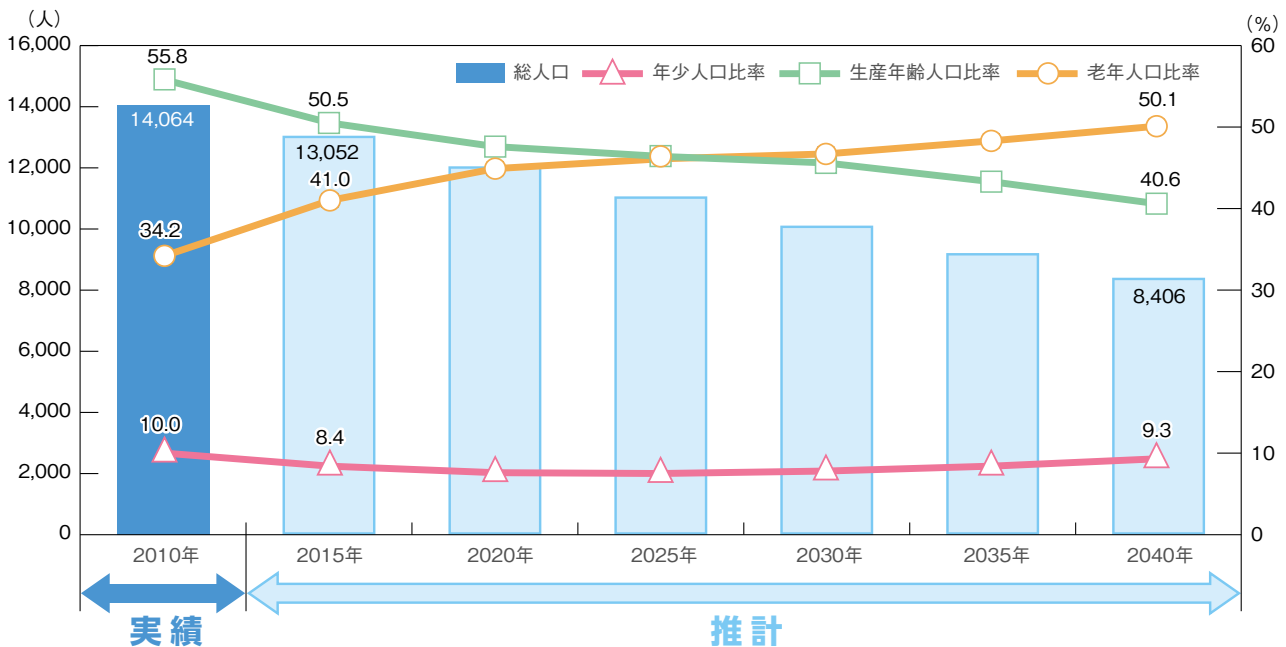
このまま人口減少が進んだ場合、地域産業の担い手不足や消費市場の縮小といった産業への影響、一定数の人口の上に成り立つ医療や介護などの日常生活に必要なサービスの継続が困難になるといった生活への影響が懸念されます。

また、人口の減少に伴う税収減等による財政状況の悪化は、公共インフラを始めとする社会資本の維持や政策課題への対策が困難になり、こうした状況が更なる人口減に拍車をかける恐れがあります。

そこで、本町は人口減少の抑制を図り、下記のとおり将来人口の目標を掲げます。



町が目指す将来人口



将来人口設定の考え方

人口に関する調査及び分析等から、以下の目標を設定し、将来人口を推計しました。

合計特殊出生率

調査では、若い世代は2～3人の子どもを持ちたいという希望が多いが、2008～2012年の本町の合計特殊出生率が1.38となっている現状を踏まえ、2040年に1.80に達することを目標とします。

社会移動

2040年に社会移動の均衡が実現していくものとするが、若い世代は就学や就労など、町外で様々な経験を積むことも人生において重要なため、若い世代のある程度の転出超過は見込みます。

総合戦略について

総合戦略における基本的な考え方

1 人口減少及び地域経済縮小の克服に向けた町ぐるみの早急な対策の実施

国の総合戦略では、「人口減少が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小が人口減少を加速させる」という負のスパイラル（悪循環の連鎖）について指摘されています。

この構造的な課題への対策は早ければ早いほど効果があるため、事態への対応を先延ばしにしないことが重要となります。

そのため本町は、人口減少及び地域経済に関する問題意識を住民や事業者と共有しながら、今までにない危機感をもって地域一丸となって取り組みます。

2 まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立

新たな人の流れを生み出すことにより、好循環を支える「まち」に活力を取り戻し、安心して暮らせる社会環境をつくり出すことが急務となっています。

人の流れを生み出すことは、観光を主産業とする本町の特性からも重要です。

恵まれた自然や優良な温泉地を有する本町の知名度を高め、本町に訪れる人の増加を図るとともに、訪れる人々が“来て良かった”“また来たい”“住んでみたい”“住み続けたい”と思える流れを生み出していくことが、まさに“まち”に活力を取り戻し、安心して生活を営んでいける環境をつくり出すことにもつながります。

そのため、本町の特性を生かしながら、克服すべき課題には早急に解決に向けて取り組み、まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立を目指します。



総合戦略における基本目標等

町は、国や県の基本目標を勘案しつつ、統計データの分析結果や職員、住民、有識者等の各種意見を踏まえ、町総合戦略における政策分野及び基本目標は次のとおりとし、町人口ビジョンで示した将来人口の目標の達成に向けて、官民一体となって取り組んでいきます。

政策分野

基本目標

しごとづくり

豊かで安定した暮らしを営めるしごとづくり

結婚・出産・子育て

結婚や出産、子育ての喜びを分かち合える環境づくり

人の流れ・まちづくり

また来たくなる、住み続けたいまちづくり

具体的な施策の展開

基本目標 1

豊かで安定した暮らしを営めるしごとづくり

本町は、温暖な気候や自然景観、豊かな温泉地に恵まれていることから、観光産業を中心に発展してきました。しかし、交通網の発展、温泉地の増加、国内景気の停滞等により、本町の観光産業は厳しい状況が続いています。

また、農業においては、平坦な土地が少ないために生産性での競争は厳しく、企業誘致についても、地形的な条件や道路交通環境から難しい現状にあります。

しかし、近年は外国人観光客も増えつつあるため、観光産業を主軸とした地域経済が循環していく仕組みを構築するとともに、農商工観光が連携した産業振興の取組や、地域産業を支える人材育成などに取り組みながら、安定した収入が得られる雇用の場の確保を目指していきます。さらに伊豆縦貫自動車道路の早期開通の実現から、交通アクセスの向上による地域の発展を図ります。

成果指標

数値目標	基準値	目標値(H31年度)
入湯客数	841,478人 (H26)	875,000人
勤労者の働く環境づくりの満足度 〔アンケート調査〕	2.3% (H27)	5%
従業者数 〔経済センサス・活動調査〕*	5,793人 (H24)	6,000人

*従業者数については、平成24年の経済センサス・活動調査に基づき目標値を定めるが、本計画は町人口ビジョンに示す将来人口の目標を達成するための第1段階の計画として位置づけられることから、平成29年の調査結果を踏まえ、平成34年の目標を改めて設定し、取り組むものとします。

取組概要

1 経済波及効果のある観光産業の振興を促進する

- ① インバウンド観光の振興を図る
- ② 若者を対象とした観光誘客を推進する
- ③ 文化・芸術・スポーツイベントと組み合わせた観光誘客を推進する
- ④ 観光拠点整備事業の展開を図る



2 東伊豆ならではの産業振興により、安定した雇用を創出する

- ① 地域資源（稲取キンメや天草、ニューサマーオレンジ、オリーブ植樹等）を生かした業種横断的な取組による産業振興を図る
- ② 起業創出を促進する

3 持続可能な地域産業を支える人材を確保、育成する

- ① 地域産業を支える人材の確保・育成を図る
- ② 女性、高齢者、障がい者の働く機会を創出する

基本目標 2

結婚や出産、子育ての喜びを分かち合える環境づくり

本町では、死亡数が出生数を上回る自然減が長期にわたって続いており、人口減少問題を克服するためには、出生数の減少に歯止めをかけていかなければなりません。

出生数減少の要因として、一般的に未婚化・晩婚化が挙げられますが、本町の未婚率は県平均を上回っています。一方で、アンケート調査からは、未婚者の多くが結婚を希望しており、理想の子ども数も2人以上という回答が多いことから、出会いの場の創出や結婚支援など、家庭を築きやすい環境づくりを目指していきます。

また、本町では、婚姻状況にある住民の多くは2人以上の子どもがいますが、アンケート調査では、約3割が理想の子どもの人数よりも、現実に持つ子どもの人数は少ないという理想と現実の乖離が生じています。この乖離を埋めていけるように、現状の子育て支援施策をベースにした妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援体制の充実や、地域における子育ての協力体制の構築、学びの環境の充実などに取り組み、出産・子育てしやすい環境づくりを目指していきます。

成果指標

数値目標	基準値	目標値(H31年度)
合計特殊出生率	1.38 (H20~H24)	▶▶ 1.45
25~39歳男性未婚率 〔アンケート調査〕	58.6% (H27年度)	▶▶ 55%
25~39歳女性未婚率 〔アンケート調査〕	31.6% (H27年度)	▶▶ 29%

*未婚率については、アンケート調査結果に基づき目標値を定めるが、本計画は町人口ビジョンに示す将来人口の目標を達成するための第1段階の計画として位置づけられることから、平成27年の国勢調査の結果を踏まえ、平成32年の国勢調査における目標を改めて設定し、取り組むものとします。

取組概要

1 結婚機運を高め、結婚しやすい環境づくりを推進する

2 子どもの出産、成長の喜びを分かち合える子育て支援環境を充実する

- ① 経済的負担の軽減を図る
- ② 切れ目のない出産・子育て支援体制を確立する
- ③ 地域の子育て支援体制の充実を図る

3 子どもの学びの環境を充実し、地域を大切に思う心を育てる



基本目標 3

また来たくなる、住み続けたくなるまちづくり

本町は、転出数が転入数を上回る転出超過が続いており、特にその傾向は若者や女性で顕著となっています。また、若者の転出超過は以前からの傾向でしたが、これまでは30歳代前後で町に戻るケースも多く見られたものの、近年は戻らないケースが増加しています。

転出する住民の多くは仕事や就学などがきっかけとなっていますが、一方で、アンケート調査では、転入者の多くが本町を転入先として選んだ理由に豊かな自然環境を挙げています。そのため、山と海に囲まれた豊かな自然環境を有する本町の強みを生かしながら、移住・定住の促進を図っていくことが必要となります。

また、人口減少による本町の活力低下が懸念されているところですが、各種施策が人口増という成果として現れるまでには時間を要します。そのため、現在、進行している町外の学生によるまちづくりに関連するプロジェクトなど、若者の発想とチャレンジ精神を応援しつつ、本町の活力、魅力の向上を目指していきます。

さらに、企業誘致や高等教育機関の誘致、転出抑制に向けた生活環境の向上に努め、交流人口や移住・転入者の増加を目指していきます。

成果指標

数値目標

基準値

目標値(H31年)

転出者数の抑制
〔町調べ〕

566人
(H27)



1%低下

転入者数の増加
〔町調べ〕

518人
(H27)



1%上昇

取組概要

1 町の資源や魅力を生かした移住・定住を促進する

- 1 移住・定住のきっかけをつくる
- 2 移住から定住へのサポート体制を充実する

2 多様な人と交流し、世界に開かれたまちをつくる

- 1 若者の夢や希望をかなえるまちをつくる
- 2 町の良さを知ってもらう場・機会をつくる

3 企業や高等教育機関の誘致等による人の流れをつくる

東伊豆へ!

4 安心して住み続けられる地域をつくる



● 今後の展開について ●

展開にあたっての政策5原則

町総合戦略は、国総合戦略で掲げられている「まち・ひと・しごと創生」政策5原則に基づき、施策を展開します。

なお、本計画の推進は、住民の皆様のご理解とご協力が不可欠なため、今後とも一層のご支援をお願い申し上げます。

まち・ひと・しごとの創生に向けた政策5原則

自立性	各施策が一過性の対処療法的なものでなく、構造的な問題に対処し、かつ継続的に取り組んでいけるように、地元企業や金融機関等の協力を得ながら事業を進めていきます。
将来性	将来どのようなまちにしたいのか、どのようなまちにしていくのかという将来像に基づき、各施策を策定しました。今後についても、社会情勢の変化や国及び県の動向を踏まえながら情報収集及び分析を行い、将来像について検証します。
地域性	本町の社会的特性や地理的特性など、客観的データに基づき分析や将来予測を行い、地域の実情に応じた施策の企画及び実施を進めます。
直接性	限られた財源の中で最大限の成果が得られるように、定住・移住の促進やしごとの創出、まちづくりに直接的・効果的な施策について、集中的に取り組めます。あわせて、より効果が得られるよう、施策の実施において、必要に応じて民間を含めた連携体制の整備を図ります。
結果重視	政策分野ごとの数値目標及び各種施策における重要業績評価指標(KPI)*1の設定により、明確なPDCA*2サイクルの下で、事業の効果や進捗状況の検証を進めます。また、成果の検証結果により取組内容の変更や中止の検討が行われるプロセスが組み込まれている場合は、柔軟に事業の見直しを行うなど、目標の達成に向けて取り組みます。

*1 重要業績評価指標 (KPI) : Key Performance Indicator の略称。施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標です。

*2 PDCA : Plan-Do-Check-Action の略称。Plan (計画)、Do (実施)、Check (評価)、Action (改善) の4つの視点をプロセスの中に取り込むことで、プロセスを不断のサイクルとし、継続的な改善を推進するマネジメント手法のこと。Plan-Doとして効果的な地方版総合戦略の策定・実施、Checkとして地方版総合戦略の成果の客観的な検証、Actionとして検証結果を踏まえた施策の見直しや地方版総合戦略の改訂を行うことが求められます。

発行：静岡県 東伊豆町 企画調整課
静岡県賀茂郡東伊豆町稲取3354
TEL：0557-95-1100
FAX：0557-95-0122
E-mail kikaku@town.higashiizu.shizuoka.jp

